

科目名	障害学 Disability Studies		担当教員 (研究室番号)	浦野 茂 (503)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	4年次前期	科目区分	教養・基礎科目		選択区分	選択	単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等履修生	可
											オープンクラス	可
科目目的	人間の生命に関する様々な事柄が現代の社会においてどのような仕方で見られ、問題として経験されているのか、そしてまたこれらを通じて現にどのような政治が行われているのだろうか。この授業の目的は、こうした問題についてとくに障害（身体・知的・精神の障害）をめぐる社会的コンフリクトを事例に、検討します。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。（知識・理解）										
	関連するDP	A 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観に基づいて行動することができる。（姿勢・態度）										
到達目標	障害をめぐって人びとの間にさまざまな深刻なコンフリクトがあること、そしてそれらが何に由来し、どのように解決困難なものであるのか。またそのコンフリクトについて、各自がどのように考えるのか。これらについて理解を得ることがこの授業の到達目標です。											
成績評価方法(基準)	授業での報告（35%）、各授業における小レポート（30%）、期末レポート（35%）による。											
再試験の有無と基準等	再試験あり。追加レポートの提出による。											
教科書	小川喜道・杉野昭博（編著）『よくわかる障害学』ミネルヴァ書房，2014年。											
参考書等	中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書，2003年。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業は、履修者による発表とそれにもとづくディスカッションを中心に進めます。履修者には、各回の授業に先立って教科書の該当箇所を目を通してきたうえでディスカッションに積極的に参加するよう、期待しています。											
備考												
回	学習項目	学習内容								主担当教員	授業方法	
1回	イントロダクション	授業の進め方および主題について導入的説明を行う。そのうえで、障害の社会モデルの観点から障害の概念についての解説を行う。								浦野	講義	
2回	障害学とは何か(1)	障害学の目的と基本的な考え方について理解する。								浦野	講義	
3回	障害学とは何か(2)	障害の社会モデルの考え方を理解する。								浦野	講義	
4回	障害学とは何か(3)	日本におけるバリアフリーの考え方の普及を理解する。								浦野	講義	
5回	障害の経験(1)：視覚障害について	当事者の語りに基づき、視覚障害をもつということがどのようなことか、理解する。								浦野	講義	
6回	障害の経験(2)：聴覚障害について	当事者の語りに基づき、聴覚障害をもつということがどのようなことか、理解する。								浦野	講義	
7回	障害の経験(3)：肢体不自由について	当事者の語りに基づき、肢体不自由をもつということがどのようなことか、理解する。								浦野	講義	
8回	障害の経験(4)：発達障害について	当事者の語りに基づき、発達障害をもつということがどのようなことか、理解する。								浦野	講義	
9回	障害の経験(5)：精神障害について	当事者の語りに基づき、精神障害をもつということがどのようなことか、理解する。								浦野	講義	
10回	障害の支援(1)：障害支援について	当事者の語りに基づき、障害支援の実践について理解する。								浦野	講義	
11回	障害の支援(2)：障害者の地域生活支援について	当事者の語りに基づき、地域生活を支援する実践について理解する。								浦野	講義	
12回	障害をめぐる社会制度(1)	日本における障害者支援制度の歴史を理解する								浦野	講義	
13回	障害をめぐる社会制度(2)	日本における障害者支援制度の歴史を理解する								浦野	講義	
14回	障害学の思想と実践(1)：優生学とその問題について	障害学の思想について、とくに優生学批判に焦点を中心に理解する。								浦野	講義	
15回	障害学の思想と実践(2)：障害者当事者運動について	障害学の実践について、日本における障害者運動を中心に理解する。								浦野	講義	

学 習 課 題

各回の授業に先立ち、教科書の指定箇所に通し、関連する経験や問題をまとめておくこと。
各回の授業時間後、授業内容についての小レポートを作成・提出する。

実務経験を活かした教育の取組